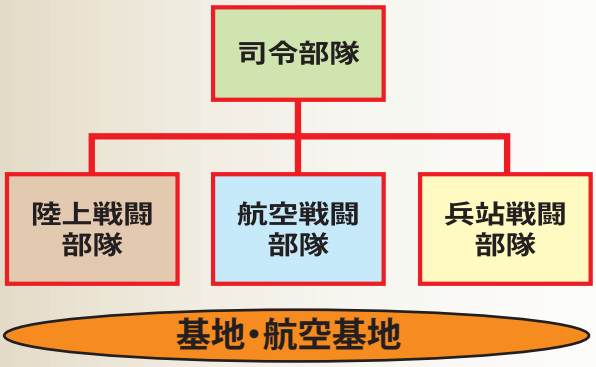
AIR GROUND TEAM
III
MARINE EXPEDITIONARY FORCE
MARINE CORPS INSTALLATIONS COMMAND
MCIPAC
PACIFIC
第三海兵遠征軍
米海兵隊太平洋基地
即応態勢部隊

MAGTF（マグタフ）入門講座

海兵空陸任務部隊

海兵空陸任務部隊「MAGTF（マグタフ）」は、様々な軍事作戦任務を行うための海兵隊の基本的な組織。規模の拡大・縮小が可能で、多用途に使え、広範囲にわたる有事、危機、紛争に対応可能な遠征兵力を戦闘部隊指揮官に提供することができる。連合部隊チームである海兵空陸任務部隊の指揮および調整は、配備前の訓練から、配備中、軍事行動の全ての段階を通じ、単独の指揮官によって行われる。海兵隊は、航空、陸上、兵站の各部隊をまとめ、自立した一つの部隊として運用している。

海兵空陸任務部隊は、空から、または海から、あるいはその両方から迅速に展開するために、任務に応じ編制される。どんな任務であっても、一つの海兵空陸任務部隊は展開可能な４つの部隊要素で構成される。司令部隊（CE）、陸上戦闘部隊（GCE）、航空戦闘部隊（ACE）、兵站戦闘部隊（LCE）である。



司令部隊： 司令部隊は、海兵空陸任務部隊司令部と、諜報、通信、管理支援を提供する部隊で構成されている。

陸上戦闘部隊： 陸上戦闘部隊は、任務に応じて編制され、陸上戦闘作戦を実施するため、歩兵、砲兵、偵察、装甲、軽装甲、水陸両用強襲車両、工兵、その他の部隊で構成される。

航空戦闘部隊： 航空戦闘部隊は、攻撃及び防衛航空作戦を実施する部隊で、海兵隊航空部隊の6つの機能（強襲支援、対航空機戦、攻撃航空支援、電子戦、航空機とミサイルの管制、航空偵察）を果たすために任務に応じ編制される。

兵站戦闘部隊： 兵站戦闘部隊は任務に応じて編制され、海兵空陸任務部隊全体の継続的即応性と持続可能性を維持する上で必要なあらゆる戦闘兵站機能および能力を提供する。

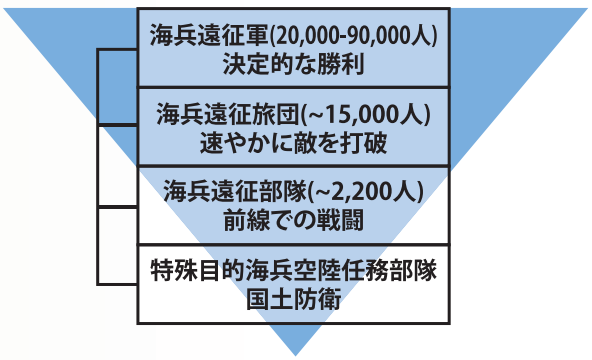
基地・航空基地： 現在と将来の作戦部隊の要求に応じて、作戦部隊とテナント部隊に、継続的かつ合理的なサービスと支援を提供する。

海兵遠征軍： 海兵遠征軍は、大規模な有事や危機に対応するための主要な戦闘組織であり、平時と有事における主要な「常設海兵空陸任務部隊」である。

海兵遠征旅団： 海兵遠征旅団は中規模の海兵空陸任務部隊であり、海兵遠征部隊と海兵遠征軍の中間にあたる能力を提供する。手持ちの30日分の補給物資で、いかなる地理条件においても、上陸強襲と陸上での持続的作戦を実施することが可能。

海兵遠征部隊： 前方展開する海兵遠征部隊は揚陸即応群の艦船に乗船し、統合戦闘指揮官の下、管轄地域において継続的に活動しつつ海上を拠点とする柔軟な海兵空陸任務部隊を提供する。

特殊目的海兵空陸任務部隊： 特殊目的海兵空陸任務部隊は、特殊任務、特殊作戦や限定的地域における演習を実施するために任務に応じて編制される。



III MEF
第三海兵遠征軍

キャンプ・コートニーに司令部を置き、中将が指揮を執る第三海兵遠征軍の任務は、太平洋軍司令官に前方駐留・展開兵力を提供することで、フェーズ・ゼロ（平時）活動や戦域安全保障協力活動を行い、有事や緊急事態への対応を支援し、戦域および国家の戦略を支援する既存の作戦計画を迅速に遂行できる態勢を整えておくことである。

第三海兵遠征軍は、迅速に派遣可能な柔軟かつ自己完結型の戦闘兵力を提供するために、一つの海兵空陸任務部隊（MAGTF）として組織されている。海兵隊は、航空、陸上、兵站の各部隊をまとめ、自立した一つの部隊として運用している。海兵空陸任務部隊の規模や構成は各任務によって決定され、「即応態勢部隊」としてどんな危機にも対応できる柔軟性を海兵隊に与えている。第三海兵遠征軍は、あらゆる海兵空陸任務部隊の中で最大規模のものである。

第三海兵遠征軍は、第3海兵師団、第1海兵航空団、第3海兵兵站群、第3海兵遠征旅団、第31海兵遠征部隊で構成されている。

第三海兵遠征軍の部隊の大部分は沖縄に駐留し、最大19,000人近くの海兵隊員と海軍兵が計10箇所の基地と航空基地に駐留している。また、3,200人以上が日本本土の海兵隊岩国航空基地とキャンプ富士諸職種共同訓練センターに、約5,000人がハワイに駐留している。

第三海兵遠征軍の隊員らは、同盟国である日本、タイ、フィリピン、韓国、オーストラリアを含むアジア太平洋地域で、多国間および二国間の合同訓練・演習に年間65回以上参加している。これらの演習によって、パートナー国の能力を構築し、強固な地域同盟と軍隊同士のつながりを形成・維持することが可能となり、大規模な戦闘作戦から人道支援・災害救援にいたるまで様々な作戦を行う態勢を整えることができる。

第三海兵遠征軍は、この地域全域での人道支援・災害救援活動において重要な役割を担ってきた。2011年3月11日に本州を襲った東日本大震災の後、トモダチ作戦において、日本政府主導で行われた救援活動を支援。また、タイにおいて2011年10月、フィリピンにおいて2010年10月、インドネシアでは2009年10月に、人道支援・災害救援活動を行っている。

3D MEB
第3海兵遠征旅団

キャンプ・コートニーに司令部を置き、准将が指揮を執る第3海兵遠征旅団は、部隊規模の拡大・縮小が可能であり、常時展開し、合同任務が可能な前方展開司令部隊である。同部隊は、上陸作戦、危機対応、および一定の有事作戦の遂行が可能である。

第3海兵遠征旅団は、後続部隊が活動できるようにし、同盟関係の強化に向け戦域安全保障協力を支援し、第三海兵遠征軍が運用上必要とする支援を提供する。

第3海兵遠征旅団は、任務に応じて規模や装備を調整できる海兵空陸任務部隊である。司令部隊、地上戦闘部隊（連隊本部）、航空戦闘部隊（海兵航空群本部）、兵站戦闘部隊（兵站戦闘連隊本部）により構成され、海兵空陸任務部隊の規模としては中型である。各支援部隊の規模は任務内容に応じて決定されるため、柔軟性のある構成が可能となる。任務内容に応じて7,000から15,000人の海兵隊員が任務にあたる。

第3海兵遠征旅団は、迅速に配備展開し、人道支援や災害救助および集中上陸強襲など広範囲に及ぶ活動が可能な即応部隊である。

有事の際には、海上事前集積船隊と連携して遠征軍規模への拡大を円滑にしたり、または統合任務部隊本部の指揮部隊を編成し他軍と合同で行う任務を支援したりする。臨機応変な対応が可能なため、迅速かつ効率的に任務を遂行することができる。

米太平洋軍戦域安全保障戦略を支援し、アジア太平洋地域で演習、作戦、訓練を実施している。同地域では、主に軍事相互運用能力の訓練を行っているが、民事プログラム活動にも尽力している。医療支援や技術支援を提供することで、受入国の様々な技術を磨き、関係強化に努めている。

31ST MEU
第31海兵遠征部隊

キャンプ・ハンセンに司令部を置き、大佐が指揮を執る第31海兵遠征部隊は、唯一、常時前方展開している海兵遠征部隊で、アジア太平洋地域における米国の即応部隊である。

第三海兵遠征軍の最も活動的な有事対応部隊である第31海兵遠征部隊は、約2,200人の海兵隊員や海軍兵から成り、司令部隊、大砲や水陸両用車両その他を装備する歩兵大隊、ハリアー機分遣隊により増援された航空戦闘部隊、戦闘兵站大隊の4つの部隊で構成されている。

第31海兵遠征部隊は、海兵隊で唯一常時前方展開している海兵遠征部隊である。

第31海兵遠征部隊は、6ヶ月から7ヶ月の訓練サイクルで、歩兵大隊、砲兵中隊、軽装甲車両中隊、水陸両用強襲車両中隊を米国から日本に交代で配備している部隊配置計画の支援を受けている。

第31海兵遠征部隊は、強襲揚陸艦、ドック型揚陸艦、ドック型輸送揚陸艦で構成される揚陸即応群の艦船に定期的に乗船している。この海軍・海兵隊共同チームは、アジア太平洋地域での有事の際には、まず最初に選ばれる初期対応組織である。

海兵遠征部隊は常に訓練に励み、上陸急襲や上陸強襲、略奪された船への接近・乗船・捜索・押収、墜落した航空機や人員の戦術的回収など海上特殊任務を含む急な任務にも早急に対応できる機能を備えている。さらに、海兵遠征部隊は人道支援や災害救助に対応できるように常時訓練し、要請があれば一般市民の避難活動も行なうことが可能。海兵遠征部隊の機能には、中型・大型航空輸送、陸上輸送、医療・歯科衛生業務、物資配給、電力や水の生産、重機や建設作業などがある。第31海兵遠征部隊は、2009年に3回、2010年に1回、そして2011年に1回（トモダチ作戦）人道救援活動を実施。

第31海兵遠征部隊はアジア太平洋地域に展開している間、地域の同盟国と提携し、定期的に二カ国間演習や多国間演習を実施している。海兵遠征部隊の持続的な展開配置は、地域の平和と安全に貢献している。

3D MARDIV
第3海兵師団

キャンプ・コートニーに司令部を置き、少将が指揮を執る第3海兵師団は、第三海兵遠征軍の陸上戦闘部隊である。その任務は、任務に応じて組織された部隊を提供し、国家安全保障の目標を支援する遠征強襲上陸作戦を展開、実施することである。第3海兵師団は約7,500人の海兵隊員および海軍兵から成り、第3、第4海兵連隊の歩兵連隊2個で構成される。また同師団は、第12海兵砲兵連隊、本部大隊、第3偵察大隊、戦闘強襲大隊で構成され、戦闘強襲大隊は水陸両用強襲車両中隊、軽装甲偵察中隊、戦闘工兵中隊から成る。その上、第3海兵師団は沖縄県北部にあるこの種の施設としては国防総省唯一の施設、ジャングル戦闘訓練施設にインストラクターとスタッフを提供している。

第3海兵師団は、アジア太平洋地域における主要な陸上多目的部隊で、司令部や関連部隊の多くが沖縄に配置されているが、その内、歩兵連隊1個および砲兵大隊1個はハワイに駐留している。

第3海兵師団は、6ヶ月から7ヶ月の訓練サイクルで、歩兵大隊、砲兵隊、軽装甲車両中隊、水陸両用強襲車両中隊を米国から日本へ交代で配備している部隊配置計画に参加している。

同師団は、主に沖縄、日本本土、ハワイで訓練を行い、日本やタイ、フィリピン、韓国、オーストラリアを含む同盟国と共に様々な戦域安全保障協力演習を支援し、頻繁に太平洋全域に展開している。

1ST MAW
第1海兵航空団

キャンプ・フォスターに司令部を置き、少将が指揮を執る第1海兵航空団は、第三海兵遠征軍の航空戦闘部隊である。その任務は、攻撃航空支援、対航空支援、能動的もしくは受動的な電子妨害手段を含む航空偵察、航空機とミサイルの管理などにより艦隊海兵部隊を支援する航空作戦を実施することである。付随的な役割として、艦隊司令官の指示により海軍が他の機能を実行する際に、海軍航空兵力の不可欠な構成要素として関与することもある。

第1海兵航空団は約7,500人の海兵隊員および海軍兵から成り、固定翼・戦闘攻撃群1個（海兵隊岩国航空基地の第12海兵航空群）、回転翼強襲支援群2個（海兵隊普天間航空基地の第36海兵航空群、ハワイ・カネオヘベイ海兵隊基地の第24海兵航空群）、航空指揮統制群1個（海兵隊普天間航空基地の第18海兵航空管制群）で組織されている。

第36海兵航空群の回転翼機、航空管制および地上航空支援装備は、海兵隊普天間航空基地に配置されている。装備の内容は、CH-53E、CH-46EとMV-22オスプレイ（CH-46の代替機）の併用である。AH-1W攻撃ヘリ、UH-1Yヘリ、KC-130J空中給油機もまた海兵隊普天間航空基地に配置され、射撃能力と強襲支援の強力な連携を提供している。

同航空団の残りの部隊は、F/A-18ホーネットとAV-8Bハリアーが海兵隊岩国航空基地に、CH-53Eがハワイ・カネオヘベイに配置されている。

第 1 海兵航空団は部隊配置計画の支援を受け、F/A-18飛行隊2個、大型輸送ヘリ飛行隊1個、軽攻撃ヘリ飛行隊1個が、アメリカから日本へ半年毎に展開している。

3D MLG
第3海兵兵站群

キャンプ・キンザーに司令部を置き、准将が指揮を執る第3海兵兵站群は、第三海兵遠征軍の兵站戦闘部隊であり、遠征手段を通して、迅速かつ任務に適した質の高い兵站支援を提供することができる。

沖縄、ハワイ、日本本土に点在する隷下部隊に所属する約6,800人の海兵隊員と海軍兵から成る。これらの隷下部隊には、第3、35、37戦闘兵站連隊と、後方支援、物資供給、整備、土木工事、医療、歯科治療を行う大隊6個が含まれる。

第3海兵兵站群は、タイ、フィリピン、韓国、バングラディッシュ、カンボジア、オーストラリア、モンゴルなどアジア太平洋地域各地で定期的に訓練演習を支援・実施している。これらの演習は、地域で自然災害が発生した際に迅速に対応できる能力を強化するとともに、地域の平和と安定を向上させつつ同盟国やパートナー国との相互運用能力を向上させることに焦点をあてている。

また、人道支援活動や災害援助活動を支援するためにも配備され、医療・歯科治療支援、土木・管理技術、および活動や演習を支える背骨となる兵站任務の提供に重点をおく。

2011年3月11日に地震と津波が東北地方を襲った際、第3海兵兵站群は、重要な物資を被災者に届け基本インフラを回復させるための後方支援システムの確立に貢献した。同年10月には、大雨がタイを襲い、77州のうち66州で洪水を引き起こし820万人に被害をもたらした際、第3海兵兵站群の司令部隊が、災害援助活動の監督にあたった。

第3海兵兵站群は、あらゆるレベルにおいてプロフェッショナルな指揮官を持つ海軍・海兵隊チームであり、生活の質と資源の管理の向上に専心している。任務を遂行する能力を備え、アジア太平洋地域において質の高い後方支援を提供し、世界規模の資源調達の必要性に応えている。

MCIPAC
米海兵隊太平洋基地

米海兵隊太平洋基地（MCIPAC）は、少将が指揮を執り、司令部をキャンプ・フォスターに置く。その任務は、現在と将来の作戦部隊の需要に応じて、作戦部隊とテナント部隊に最高品質の継続的かつ合理的なサービスと支援を提供することである。

米海兵隊太平洋基地は、太平洋活動範囲内の基地管理資源とサービスに関して、単独の権限を付与されている。地域の基地管理効率の向上を目的として創設され、政策を実施し、地域の戦略や計画を作成し、資源の優先順位を確定し、日本国内、韓国、ハワイの全ての海兵隊基地にサービス、指示、管理を提供している。

米海兵隊太平洋基地は、軍人約2,600人、民間人従業員1,200人、日本人及び韓国人従業員3,500人余で構成されている。

米海兵隊太平洋基地の管轄下にある基地は、海兵隊バトラー基地、海兵隊ハワイ基地、海兵隊岩国航空基地、海兵隊普天間航空基地、キャンプ富士諸職種共同訓練センター、そして韓国のキャンプ・ムジャックである。

実際の作戦参加であれ、訓練や演習への参加であれ、米海兵隊太平洋基地は、配備前、配備中、配備後にわたって部隊を支援している。司令部隊は、訓練場、職場施設、電気・水道や住宅などのサービスを各基地が確実に供給するよう責任を担っている。

米海兵隊太平洋基地は、個人隊員から海兵空陸任務部隊の各階層の部隊にいたるまで、作戦に対する即応性の向上に専心すると同時に地域社会、パートナー国、同盟国と協力、調整し、コミュニケーションをとることにも尽力している。

米海兵隊太平洋基地は、地域内諸国の隣人たちとの、長期的で強固かつ互恵的なパートナーシップを確保するための二国間協議に定期的に関与している。これら地域との発展し続ける関係は、我々の地域交流活動を特徴づけるものである。

地域交流活動

海兵隊員や海軍兵及びその家族らは、ただ単に日本に派遣されているだけではない。地域の一員として日本に住み、働き、子育てをしている。彼らは重要な同盟国の住民であると同時に、よき隣人、友人になろうと努力している。

海兵隊員や海軍兵らは、地域のリーダー、一般の人々、民間人社会との交流を通じ、日本の文化や多様性をより深く理解していく。

在日海兵隊員は、毎年恒例の祭りやスポーツ行事、ビーチの清掃活動、音楽祭など、年間のべ1,500回以上もの地域交流行事に参加している。隊員らがボランティアで沖縄の小学校で英会話を教えている英語教育プログラムは、その中でも最も人気のある地域交流活動の一つである。

アメリカ婦人福祉協会など他の数多くのボランティアや慈善団体も、老人ホームや児童福祉施設を定期的に訪問し、時間や労力を費やし、寄付行為を行っている。

米海兵隊太平洋基地は、人材育成や相互交流の更なる促進を図るため日本の大学生をインターンとして受け入れており、また、日本の政策や文化を学習させるために日本の国会へ海兵隊士官をインターンとして送っている。

2011年3月11日の東日本大震災の後、米海兵隊太平洋基地はホームステイを開催し、最も深刻な被害を受けた場所の一つである気仙沼大島から子供たちや保護者らを受け入れた。また沖縄県内41市町村の災害対策関係者を対象に、気仙沼大島の代表者による災害から得た教訓についての講演を開催。さらに、人道支援・災害救援に関する相互協力を強化するために、静岡県をはじめ、他県とも情報共有を促進している。

米海兵隊太平洋基地は、日米関係、同盟関係、海兵隊の役割に関心を持つ方々の訪問を定期的に受け入れている。一日かけて行うマリンコー101コース（海兵隊入門コース）は、海兵隊の歴史、組織、役割を日本の一般の人々に紹介する様々な取り組みのうちの一つである。

中国
太平洋
日本
キャンプ・ムジャック
キャンプ富士諸職種共同訓練センター
海兵隊岩国航空基地
沖縄
香港
台湾
海兵隊バトラー基地
海兵隊普天間航空基地
キャンプ・ゴンザルベス
北部訓練場
伊江島補助飛行場
中部訓練場
キャンプ・シュワブ
キャンプ・ハンセン
キャンプ・コートニー
キャンプ・レスター
キャンプ・フォスター
海兵隊普天間航空基地
キャンプ・キンザー
海兵隊ハワイ基地
ハワイ
オーストラリア
米海兵隊太平洋基地

第三海兵遠征軍・米海兵隊太平洋基地
指揮系統

米太平洋海兵隊

第三海兵遠征軍

- 第3海兵師団
- 第1海兵航空団
- 第３海兵兵站群
- 第3海兵遠征旅団
- 第31海兵遠征部隊

米海兵隊基地司令部

米海兵隊太平洋基地

海兵隊バトラー基地
- キャンプ・フォスター
- キャンプ・レスター
- キャンプ・キンザー
- キャンプ・ハンセン
- キャンプ・コートニー
- キャンプ・シュワブ
- キャンプ・ゴンザルベス（北部訓練場）

- 海兵隊普天間航空基地
- キャンプ富士 諸職種共同訓練センター
- 海兵隊岩国航空基地
- 海兵隊ハワイ基地
- キャンプ・ムジャック

発行

第三海兵遠征軍・米海兵隊太平洋基地　報道部

翻訳

第三海兵遠征軍・米海兵隊太平洋基地　報道部
米国海兵隊太平洋基地・在沖海兵隊バトラー基地　政務外交部（G-7）

www.okinawa.usmc.mil

120920-K-9280-002